

## 第2章 東南アジア諸国の制度と実施状況

## 第1節 インドネシア (Indonesia)

スマール・ヘンダヤナ・黒田則博

### 1. 単位制度、成績評価制度等に対する政府の規定・認証評価活動

#### (1) 国全体の高等教育制度の概要

インドネシアの高等教育は2つの省、すなわち、イスラム系の高等教育機関については宗教省が、その他については国民教育省が所管している。これらの高等教育機関は、設置者により公（国）私に分けられるほか、教育研究の範囲や授与する学位等の違いにより、①総合大学（University。多くの分野をカバーする）、②専門大学（Institute。複数の専門学部を有する）、③単科大学（School of Higher Learning。1つの学部のみを有する）、④アカデミー（Academy。職業・技術教育を提供する高等教育機関）、及び⑤ポリテクニク（Polytechnic。アカデミーよりは、工学、経営などより特化した分野の職業技術教育・高等教育機関）の5種類に分類される。①～③の機関は、いずれも学士、修士、博士の課程を有するほか、ディプロマ（Diploma）・コースも提供している。④、⑤についてはディプロマ・コースが中心。

学位・資格については、アカデミックな学位としてS1（学士。4年）、S2（修士。通常学士取得後2年）、S3（博士。通常修士取得後2～3年）があるほか、職業・技術系の専門資格としてD1、D2、D3、D4（D：ディプロマ。数字は高等教育機関での必要在学年数を示す）とSP1、SP2（SP：スペシャリスト。それぞれ修士、博士に相当）がある。

高等教育機関に関する統計は、以下のとおり。

表1 高等教育数（インドネシア文部科学省、2007）

番号	機関種類	国立		私立		合計
		校	%	校	%	
国民教育省	計	82	3.1	2,598	96.9	2,680
	総合大学 (University)	48	11.3	375	88.7	423
	専門大学 (Institute)	6	14.0	37	86.0	43
	単科大学 (School of Higher Learning)	2	0.2	1,186	99.8	1,188
	アカデミー (Academy)	-	-	884	100.0	884
	ポリテクニク (Polytechnic)	26	18.3	116	81.7	142
宗教省	計	52	9.5	494	90.5	546
	総合大学 (University)	6	6.5	86	93.5	92
	専門大学 (Institute)	13	34.2	25	65.8	38
	単科大学 (School of Higher Learning)	33	8.0	377	92.0	410
	アカデミー (Academy)	-	-	6	100.0	6
	ポリテクニク (Polytechnic)	-	-	-	-	-

高等教育機関への入学者選抜については、国立の総合大学及び専門大学への志願者の場合はまず、国民教育省・高等教育総局が年1回全国一斉に実施する全国共通入学試験を受けなければならない。この試験は、志願大学に関係なく最寄りの大学で受験できる。専攻分野によっては、筆記試験に加え実技試験が課されることもある。さらに多くの場合、高等学校での成績の提出が求められる。これらの結果を総合的に勘案して各大学が合格者を決定する。なお、志願者は2校まで応募できる。また、その他の国立の高等教育機関や私立の機関は、それぞれの選考方法をとっている。

## (2) 単位制度に関する規定、認証システム等の概要

国民教育省が2000年に出した「カリキュラムと成績評価に関する指針」(省令 No. 232/U/2000)は、単位制度について以下のように定めている。

なお、以下でいうインドネシアにおけるセメスターは一般に、2月から6月と9月から翌年の1月までで、1セメスターは16週から19週でなっている。

また、1単位は1セメスター当たり46時間の学習に相当するとされ、これには授業のほか、いわゆる宿題や自習の時間が含まれている。このほか、実習の場合は60時間、インターンシップの場合は85時間が1単位とされている。

### アカデミックな学位の場合

学士課程：標準8セメスター(4年)で144単位(医学の場合192単位)が修了要件。8セメスター未満での修了も可。また最大160単位まで取得可。最長14セメスター(7年)まで在籍可。

修士課程：標準4セメスター(2年)で36単位が修了要件。4セメスター(2年)未満での修了も可。また最大50単位まで取得可。最長10セメスター(5年)まで在籍可。

博士課程：専攻等により以下のように必要単位数が異なる。

#### (修士・博士課程一貫型)

- 学部において同じ専攻であった場合は、標準8セメスター(4年)で76単位が修了要件。8セメスター(4年)未満での修了も可。最長12セメスター(6年)まで在籍可。
- 学部において異なる専攻であった場合は、標準9セメスター(4.5年)で88単位が修了要件。9セメスター(4.5年)未満での修了も可。最長13セメスター(6.5年)まで在籍可。

#### (修士課程修了者の場合)

- 修士課程において同じ専攻であった場合は、標準4セメスター(2年)で40単位が修了要件。4セメスター(2年)未満での修了も可。最長10セメスター(5年)まで在籍可。
- 修士課程において異なる専攻であった場合は、標準5セメスター(2.5年)で52単位が修了要件。5セメスター(2.5年)未満での修了も可。最長11セメスター(5.5年)まで在籍可。

### 職業・専門資格の場合

- D1：最短2セメスター（1年）で40単位が修了要件。最大50単位まで取得可。最長4セメスター（2年）まで在籍可。
- D2：最短4セメスター（2年）で80単位が修了要件。最大90単位まで取得可。最長6セメスター（3年）まで在籍可。
- D3：最短6セメスター（3年）で110単位が修了要件。最大120単位まで取得可。最長10セメスター（5年）まで在籍可。
- D4：最短8セメスター（4年）で144単位が修了要件。最大160単位まで取得可。最長14セメスター（7年）まで在籍可。

### (3) 成績評価制度に関する規定、認証システム等の概要

上記指針は、成績評価についても以下のように定めている。

- 学生の評価は、試験、課題に関するレポート、教員の日常的な考査によって定期的に行なう。
- 試験は、セメスターの中間、セメスターの終了時、課程修了時に行なわれるほか、プロジェクトの報告書、修士論文、博士論文の形でも行なわれる。
- 評価は、A、B、C、D及びEによって示され、点数（GPA）としては、それらは、4,3,2,1及び0に相当する。（GPAとは別に、インドネシアでは一般に、80点以上がA、70点～79点がB、60点～69点がC、50点～59点がDとされ、50点以下はF（不合格）、あるいは、90点以上がA、80～89点がB、70～79点がC、60～69点がD、50～59点以下がE、49～0点がF（不合格）とされる。）
- 各高等教育機関の長は、中途退学に関する規定を設けることができる。
- 課程修了の要件は、必要単位数と必要GPAによって定められる。
- 各高等教育機関は、それぞれの課程の必要単位数を定めることができる。
- 各高等教育機関は、必要GPAを定めることができる。ただし、学士及びディプロマ課程にあっては2.00を、修士課程にあっては2.75を下らないものとする。
- 修了証には、可、良又は優の評価呼称を付すものとする。
- これらの呼称を付すGPAの基準は以下のとおり。  
（学士及びディプロマ課程の場合）  
可：GPA 2.00-2.75  
良：GPA 2.75-3.50  
優：GPA 3.51-4.00  
（修士課程の場合）  
可：GPA 2.75-3.40  
良：GPA 3.41-3.70  
優：GPA 3.71-4.00
- 優の呼称を授与するには、修業年数も考慮される。学士課程の場合、標準修業年限を1年を越えない年数までに修了すること、修士課程の場合、0.5年以内であること。
- 博士課程の修了証の呼称については、各高等教育機関によって定める。
- 学生の学習の達成度の評価は、教育の特性に応じた適切な方法により、包括的及び

連続的に行なうものとする。

- 優秀な成績を奨励するため、優秀な学生に対する顕彰制度を設けることができる

#### (4) 学生交流、単位互換等に関する概要

インドネシアにおいては、いくつかの大学・高等教育機関が単位互換やダブルディグリープログラムを開始している。インドネシア政府もこのことに関する規則を定める準備に入っているが、現在のところ大学間の合意があれば、単位はすべて互換できる。

以下では、国民教育省・高等教育総局が公表している検討経過に関する文書から、3つの事例を紹介する。

第1の例は、インドネシア大学、バンドン工科大学及びガジャーマダ大学の3大学が共同で実施しているプログラムである。学生は所属大学以外の大学で2セメスターまで学習でき、それによって取得した単位はすべて所属大学の単位として取り扱われる。2008年から開始され、初年度は学部学生12人が、2009年には学部学生11名、修士課程の学生4名が参加している。高等教育総局としても、大学や学生にとって有益なプログラムだとして、その拡大を奨励している。

2つ目のケースは、ガジャーマダ大学の経済学研究科が日本の7大学と連携して実施している、修士課程におけるダブルディグリープログラムである。この7大学は、神戸大学、広島大学、政策研究大学院大学、慶應大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学及び拓殖大学で、インドネシア人学生75名が参加した。このプログラムで修士号を取得するには、修士論文を含め44単位を必要とするが、22単位をガジャーマダ大学で残りの22単位は日本の大学で取ることになっており、論文の指導は、ガジャーマダ大学と日本の大学の双方の教員が当たる。なおこの事業は、日本からの借款による” Professional Human Resources Development Project”の一環として実施された。

第3は、インドネシア教育大学とオーストラリアのモナッシュ大学とが連携して昨年からは実施している、教育の質保証に関する修士課程のダブルディグリープログラムである。学生は1年間をインドネシア教育大学で、他の1年間をモナッシュ大学で学び、双方の大学から修士号を取得する。

最後に、東南アジア教育大臣機構（South East Ministers of Education Organization = SEAMEO）の高等教育開発地域センター（Regional Centre for Higher Education and Development = RIHED）の下、マレーシア、インドネシア及びタイ政府が2010年から共同実施しているM-I-Tプロジェクトを挙げることができる。このプロジェクトはいまだパイロット・プロジェクトの段階ではあるが、参加三ヵ国間で学生の移動を促すためのものである。農業、観光、言語・文化、食品技術及び国際ビジネスの分野で行なわれており、派遣国が学生の滞在費を負担し、受入れ国側は受入れ機関の授業料を賄うというものである。インドネシアでは、11の国立・私立の大学が参加している。

#### (5) 各国の高等教育プログラムの質を保証する認証システムの概要

インドネシア政府は1994年から、大学の質保証のための認証機関を設けている。この機関は、国民教育省によって設けられたものであるが、同省の一部ではなく、独立・非営利の機関（通称インドネシア語で、BAN-PTと呼ばれる）である。大学・高等教育機関の

各課程（study program）は5年間ごとにこの機関による認証を受けることになっている。認証を受けるには、各機関はまず課程の詳細に関する資料（portfolio document）を認証機関に提出する。この資料には、実際に運用されている単位制度、学生・教員のパフォーマンス、設備・設備、管理運営に関する情報が含まれる。この書類審査に合格した場合、評価員が実際に機関を訪問し視察やインタビューを行なう。最終的な評価結果は、A（優）、B（良）、C（可）、D（不可）の4段階で行なわれる。

これに加えて、高等教育総局は各高等教育機関に対して、セメスターごとの学生の成績に関する報告書の提出を求めている。これを提出しない場合は、同総局が提供する補助金への申請資格を失う。

## 2. 各大学の事例紹介

別表のとおり。

別表 各大学の事例(国立大学)

	インドネシア大学	インドネシア教育大学	ブラヴィジャヤ大学
<b>1. 大学基礎データ</b>			
(1) 設立年	1852年	1954年	1963年
(2) 学部数	12	8	12
(3) 学位	学士、修士、博士	学士、修士、博士	学士、修士、博士
(4) 学生数	学士(12,000)、修士(1,000)、博士(500)	学士(34,800)、修士(2,500)、博士(600)	学士(27,565)、修士(609)、博士(235)
(5) 留学生数	修士(10)、博士(5)	学部(16)、修士(6)	無回答
(6) 国際担当部局	有り	有り	なし
(7) 交換留学プログラム	有り	有り	有り
(8) 外国語による授業	5クラス(英語)	5クラス(英語、アラビア語、ドイツ語、フランス語、日本語)	無回答
<b>2. 単位制度</b>			
(1) 年間の学期区分	2セメスター(2月-7月、10月-2月)	2セメスター(7月-12月、1月-6月)	2セメスター(9月-1月、2月-6月)
(2) 課程の年数	学部4年(医学部5年)、修士2年	学部4~5年、修士2~3年	学部4年(医学部6年)、修士2年
(3) 修了に必要な単位	学部144単位、修士44単位	学部144-150単位、修士50単位	学部144-160単位、修士45単位
(4) 必修科目の単位の割合	無回答	学部の場合約10%	5~13%
(5) 学科等により修了単位数の異同	無回答	同一	無回答
(6) 1クラス(モジュール)当たりの平均的単位数	無回答	2-4単位	無回答
(7) 単位数設定の基準	無回答	学生に期待される学習時間によって定める	無回答
(8) 新設授業への単位数配分の根拠	無回答	他の事業と企画してカリキュラム全体の中での位置付け	無回答
(9) 互換できる単位の上限	無回答	18単位まで	無回答
(10) 単位互換に関する規定	無回答	同様の授業の外国の単位のみのみ認定	無回答
(11) 単位互換に関する学内での意見の異同	無回答	なし	
(12) 授業ごとの単位数が示されているか	示されている	示されている	示されている
(13) 授業ごとの単位数がウェブ上で示されているか	示されている	示されている	無回答
(14) シラバスに単位数が示されているか	無回答	示されている	無回答
(15) 成績表に単位数が示されているか	無回答	示されている	無回答

	インドネシア大学	インドネシア教育大学	ブラヴィジャヤ大学
<b>3. 成績評価制度</b>			
(1) 素点による成績教科の記録	記録有り	記録有り。100点満点の表示	
(2) 成績の表記の仕方	80点以上 A、70点～79点 B、60点～69点 C、50点～59点 D、50点以下 F (不合格)、あるいは、90点以上 A、80～89点 B、70～79点 C、60～69点 D、50～59点 E、49～0点 F (不合格)	90点以上 A、80～89点 B、70～79点 C、60～69点 D、50～59点 E、49～0点 F (不合格)	80～100点 A、75～80点 B+、69～75点 B、60～69点 C+、55～60点 C、50～55点 D+、44～50点 D、0～44点 E
(3) 相対評価か絶対評価か	無回答	絶対評価	無回答
(4) 授業の期待される学習成果をシラバスに示すよう教員を指導しているか	示されており、これを基に学生を評価	示されており、これを基に学生を評価	無回答
(5) 授業終了後成績提出までの期間	1週間。それを過ぎると、当該教員担当の学生の成績はすべて B	2週間。未提出の場合は、督促状	無回答
(6) 学部と大学院における評価制度の違い	違いはなし	違いはない	違いはない
(7) GPA による成績表示	GPA を採用	GPA を採用	GPA を採用。雇用、進学等に影響大
(8) 国内他大学との共同教育プログラム	有り	有り。評価については、自大学の方式に基づいて換算	有り。評価については、自大学の方式に基づいて換算
(9) 国内他大学との学生交流 プログラム	無回答	有り。評価については、自大学の方式に基づいて換算	無回答
(10) ホームページでの成績評価制度の説明	有り	有り	有り。
(11) シラバスでの成績評価制度の説明	有り	有り	無回答
<b>4. 国際カリキュラム、国際教育プログラム</b>			
(1) 外国語による学位プログラム	学士、修士、博士のいずれにおいても有り	学部レベルで、International Program on Science Education を実施	無回答
(2) 上記プログラムに関するウェブ上での英語による情報提供	情報を提供	情報を提供	無回答
(3) 国際教育プログラムを企画・実施する上での障害	教員の数が限られていること	特に障害はない	無回答



収集資料（一部翻訳）

（シラバスの例）

インドネシア教育大学大学院シラバス

科目目	Separation Chemistry					コード	PIA542
教授名	Dr. Sumar Hendayana Email: hendayana@upi.edu						
セメ	後期	単位	2	週	1	時間	2x50 分
学生出席						教室	1
Pre-requisites	-						
必須/選択/その他	必須						
普通/基礎/特別/その他	特別						
科目目的	To provide understanding on advance technique in separation chemistry						
科目説明	A course stressing the advance technique in separation chemistry. Emphasis will be on Gas Chromatography-Mass Spectroscopy GCMS, High Performance Liquid Chromatography (HPLC), Supercritical Fluid Chromatography SFC, Capillary Electrophoresis (CE).						
必須教科書	Kimia Pemisahan						
参考資料	<a href="http://fpmipa.upi.edu/kuliah/">http://fpmipa.upi.edu/kuliah/</a>						
学習用具	OHP, LCD プロジェクター, パソコン, ウェブサイト						
評価方法	試験 (2 回) = 20% 宿題 = 5% 期末試験 = 35% 中間試験 = 20% 議論への参加 = 20%						
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各学生が科目のテーマと関りのあるトピックをHPで検索すること</li> <li>➤ 出席</li> <li>➤ 宿題</li> <li>➤ レポート</li> </ul>						

## (スケジュール)

回	テーマ	活動	参考
1 <sup>st</sup> 07-02-06	導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Discussion on outline, role, and rule of the course.</li> <li>• Review on conventional method of separation.</li> </ul>	
2 <sup>nd</sup> 14-02-06	Modern chromatography 理論	Discussion on retention, capacity factor, selectivity, efficiency, and resolution.	
3 <sup>rd</sup> 21-02-06	Band broadening	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Factors affect band broadening (Eddy diffusion, longitudinal diffusion, mass transfer.</li> <li>• Effect of flow rate on efficiency</li> </ul>	
4 <sup>th</sup> 28-02-06	<i>Unit test 1</i>		
5 <sup>th</sup> 07-03-06	GC-MS	Instrumentation: carrier gas, injection system, column, detector	
6 <sup>th</sup> 14-03-06	GC-MS	Mode of operation: isotherm & temperature programming	
7 <sup>th</sup> 21-03-06	GC-MS	Application of GC-MS	
8 <sup>th</sup> 28-03-06	<i>Mid term</i>		
9 <sup>th</sup> 04-04-06	High Performance Liquid Chromatography (HPLC)	Discussion on instrumentation: pump, injection system, column, detector, and data processing	
10 <sup>th</sup> 11-04-06	High Performance Liquid Chromatography (HPLC)	Mode of operation: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Normal versus reversed phase</li> <li>• Isocratic &amp; gradient elution</li> </ul>	
11 <sup>th</sup> 18-04-06	High Performance Liquid Chromatography (HPLC)	Application of HPLC: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Ion chromatography</li> <li>• Exclusion chromatography</li> </ul>	
12 <sup>th</sup> 25-04-06	<i>Unit test 2</i>		
13 <sup>th</sup> 02-05-06	High Performance Liquid Chromatography (HPLC)	Special topic: Affinity chromatography	
14 <sup>th</sup> 09-05-06	High Performance Liquid Chromatography (HPLC)	Special topic: Micelle Liquid Chromatography	
15 <sup>th</sup>	Supercritical fluid	Discussion on principles,	

回	テーマ	活動	参考
16-05-06	Chromatography (SFC)	instrumentation, and application of SFC	
16 <sup>th</sup> 23-05-06	Capillary Electrophoresis (CE)	Discussion on principles, instrumentation, and application of CE.	
17 <sup>th</sup> 30-05-06	<i>Final Examination</i>		

(修了証明書例 (学士課程))

国立スラバヤ大学

学生の名前:.....  
ID 番号:.....

上記の者は.....年.....月.....日に.....市で生まれ、  
言語文化教育学部外国語教育学科日本語教育専攻にて、所定の課程を修了したことを  
証する。


上記の者に教育学士 (S.Pd.) 及びその肩書きに値する権利及び義務を与える。  
同時に日本語教育学に関して教授する権利も有する。

スラバヤ、.....年.....月.....日

学部長 大学長

(修了証明書例 (修士課程))

インドネシア教育大学



学生の名前:.....  
ID 番号:.....

上記の者は.....年.....月.....日に.....市で生まれ、  
大学院言語教育学科日本語教育専攻にて、所定の課程を修了したことを証する。

上記の者に教育学修士 (M.Pd.) 及びその肩書きに値する  
権利及び義務を与える。

バンドン、.....年.....月.....日

大学院課程長 大学長

(成績証明書の例 (学士課程))

国立スラバヤ大学  
言語文化教育学部 外国語教育学科

氏名 :  
学生番号 :  
入学 :

終了証書番号:  
学科 : 外国語教育  
専攻 : 日本語教育

番号	コード	コース名	単位	評点	単位 X 評点
		総合コース			
1	24201	宗教 (イスラム教)	2		
2	24206	インドネシアイデオロジー	2		
3	24207	Kewiraan	2		
4	24209	インドネシア語	2		
5	24210	基本自然科学	2		
		特別基本コース			
1	24202	幼児教育開発	2		
2	24301	教育入門	3		
3	24304	教師プロフィール	3		
4	24303	ティーチング及び学習	4		
		ティーチング及び学習過程コース			
1	24202	学習ストラテジーI	2		
2	24203	学習ストラテジーII	2		
3	24204	日本語のティーチング評価I	2		
4	24205	日本語のティーチング評価II	2		
5	24301	日本語ティーチングの計画	3		
6	24406	カリキュラム及びテキスト分析	4		
7	24410	教育実習	4		
		専攻分野コース			
1	24201	初級日本語 I (基礎)	2		
2	24202	初級日本語 II (基礎)	2		
3	24203	中級日本語 I	2		
4	24204	中級日本語 II	2		
5	24205	上級日本語 I	2		
6	24206	上級日本語 II	2		
7	24207	上級日本語 III	2		
9	24209	話し方 I	2		
10	24210	表記 I	2		
11	24211	表記 II	2		
12	24212	表記 III	2		
13	24213	発音 I	2		

14	24214	発音 II	2		
15	24220	聴解 I	2		
16	24222	聴解 III	2		
17	24223	作文 III	2		
18	24224	聴解 II	2		
19	24225	聴解 IV	2		
20	24226	読解 III	2		
21	24227	読解 I	2		
22	24228	読解 II	2		
23	24230	文法 IV	2		
24	24231	作文 I	2		
25	24232	作文 II	2		
26	24233	文法 I	2		
27	24234	文法 II	2		
28	24235	日本事情	2		
29	24236	比較文化	2		
30	24238	日本歴史	2		
31	24239	研究方法	2		
32	24240	統計学	2		
33	24241	日本文学史	2		
34	24242	教育ゼミナー	2		
35	24243	話し方 II	2		
36	24245	話し方 IV	2		
37	24246	社会言語学	2		
38	24248	意味論	2		
39	24251	文学論	2		
40	24253	日本文学	2		
41	24256	読解 IV	2		
42	24257	観光用語 I	2		
43	24258	観光用語 II	2		
44	24265	一般言語学入門	2		
45	24269	文法 III	2		
46	24272	表記 IV	2		
47	24273	表記 V	2		
48	24273	表記 VI	2		
49	24274	話し方 III	2		
50	24276	翻訳 I	2		
51	24278	翻訳 II	2		

52	24444	社会実習	4		
53	24653	卒業論文	6		
合計			151		

卒業年月日 : .....年....月....日

卒論テーマ :

GPA :

スラバヤ、.....年....月....日

(成績証明書の例 (修士課程))

### インドネシア教育大学

プログラム : 修士課程

専攻 : 日本語教育

学生番号 :

氏名 :

番号	コード	コース名	単位	点
1	BIN626	バイリンガリズム	3	
2	BJE610	一般言語学	3	
3	BJE611	日本語学概説	3	
4	BJE620	言語教育の方法	3	
5	BJE621	日本文学史	3	
6	BJE622	カリキュラム・シラバスデザイン	3	
7	BJE623	日本教育制度及び歴史	3	
8	BJE624	言語テスト	3	
9	BJE630	日本文学	3	
10	BJE631	日本語教授法	3	
11	BJE632	翻訳法	3	
12	BJE633	日本語学習のストラテジー	3	
13	MKP601	哲学	3	
14	MKP604	教育研究における統計学運用	3	
15	MKP606	教育文化社会の理論、過程、及びコンテキスト	2	

修士論文のテーマ :

単位 : 43 単位 + 修士論 (8 単位)

Grade Point Average (GPA) :

論文得点 :

Yudisium :